

公開講座の受講生を募集

教員養成大学の特色を生かした講義内容で、皆さんの多様な学習意欲にお応えします。

日=開講日時 所=場所 対=対象 定=定員 料=受講料 募=募集期間

やってみよう! 教育カフェ

—学校の“あたりまえ”を問い直そう—

日 6月8日①(全1回) 13:00~16:00 所 神戸ハーバーランドキャンパス
 対 教育関係者、保護者 定 16人 料 無料(別途茶菓子代300円程度)
 募 4月1日①~5月26日①

ピアノを弾こう!

日 6月28日①、7月5日①、19日①、8月2日①、9日①(全5回) 13:00~16:00
 所 加東キャンパス 対 一般(音楽大学出身者を除く) 定 10人
 料 7,500円※規程の改正により変更する場合あり 募 4月1日①~6月6日①

アクアスポーツ&水あそび教室

日 7月下旬(全1回、2時間) 所 加東キャンパス 対 小学4~6年生※25メートル以上泳げること 定 30人 料 無料(別途傷害保険料100円程度)
 募 4月1日①~実施日の3週間前

◎申し込み・問い合わせ

兵庫教育大学社会連携事務局

TEL 0795・44・2053 FAX 0795・44・2320

☒ office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

韓国の京仁教育大学の学生が来校

昨年10月13日、京仁教育大学の学生10人が留学生交流支援制度「日韓教育実習プログラム」により兵庫大に来校しました。同プログラムは将来教員を目指す韓国の学生が日本の教育現場を体験し、韓国との教育制度や文化の違いを理解することが狙い。学生たちは8日間の滞在中、加東市内の小中学校で授業を見学し、一般家庭でのホームステイなどを体験しました。



全国各地の教育長が神戸に集う

昨年12月21日から3日間、神戸ハーバーランドキャンパスで「平成25年度全国市区町村教育長セミナー」を開催しました。地方分権化が進む教育行政において、市(区)町村教育長の役割がより重要視されていることから、教育長のリーダーシップを支援するとともに情報交換の機会を提供することが目的。3年目となる今回は全国から47人の教育長が参加しました。



附属幼稚園

↓1曲目は「時代を超えて」。鳴子を振りながら、元気いっぱい踊る。この日は「げんきおんど」「勇気100%」も披露した



↳ 所要所で「みんな、うまいなあ」と褒める。
 「兵庫大の学生は子どもの心をつかむのが上手です。保護者が教えるよりもはるかに素直ですよ」と末永さんが感心する。
 練習を見守る母親の中には、スマートフォンで動画を撮影する人も。年長児の高見駿佑君の母、留美子さんは「新しい踊りを覚えるときは動画をコピーしたDVDを全員に配り、家でも練習します」と話す。
 発足から1年半、練習で

↳ 顔を合わすうちに保護者同士の親睦は深まり、休日にバーベキューを楽しむこともあるという。「子どもも親も、ひよつこの活動を楽しんでいきます」と末永さん。今春には、主力である年長児が小学校へ進学するが、「踊りたいという子はたくさんいますし、やらせてあげたいですね」と続ける。
 今年も子どもたちは各地のイベントに出演し、一段と上達したステージで客席に元気を届ける。



よさこいチーム「ひよっこ」 in 加東市秋のフェスティバル

うれしの
交差点

兵庫教育大学と地域の交流ページ

↓本番前にステージ裏で練習。そろいのTシャツは染色職人である末永さんが作製した



元気いっぱい
のステージで
地域のイベントに
ひよっぴりだこ

ヒ ヨコの顔がプリントされた黄色いTシャツを着た子どもたちがステージに並び、声をそろえて「僕たち、私たち、一生懸命踊ります。応援よろしくお願いします」とペこり。客席からは「かわいい」と歓声が上がった。

附属幼稚園の園児と保護者有志でつくるよさこいチーム「ひよっこ」は昨年11月、杜中央公園で開催された「加東市秋のフェスティバル」に出演。子どもたちは両手に鳴子を持ってステージを縦横無尽に踊り回り、保護者は後方で団旗を振った。

「ちゃんと踊れたかどうかは二の次。みんなでの舞台をやり遂げることが大切になっています」と話すのは保護者の一人で、代表を務める末永勲さん。

ひよっこは平成24（2012）年9月、よさこい経験のある保護者が中心となって発足した。現在、年長児23人にその弟妹が加わり、

子どもだけでも40人になる。元気いっぱいのステージが話題を呼び、イベントの出演依頼が増えているという。

「加古川のステージを見たおばあさんから『感激しました』と手紙を頂き、お礼に寄せ書きを返したこともありました」

レポートりの一つ、「勇氣100%」は兵教大よさこい部「チーム鬼灯」が振り付けた。部長の生田梨奈さん（学校心理系コース3年）は「昨年、平池公園夏のフェスティバルでひよっこと一緒に、末永さんから時間が空いている時に子どもたちの踊りを見てほしいとお願いされました」と振り返る。

秋のフェスティバルから3週間後、生田さんから5人の部員は新しい曲の振り付けを指導するため、練習場に訪れた。部員たちは「グー、パー」の掛け声で、手足を縮める、伸ばすという動きをアドバイスし、要



↑「みんなが楽しんで踊れる雰囲気をつくることを心掛けています」と生田さん

↑子どもたちの練習を見守る母親たち。自然と体が動いて…